

◎県央の巨樹・巨木探訪

(宮崎市／国富町) 2009. 11



宮崎県の巨樹

宮崎県は1991年に、県内に分布する巨樹、巨木を調査し、はじめて巨樹台帳にまとめました。宮崎県の巨樹とは、推定樹齢が100年以上、地上からの高さ1,2メートルの幹周りが3メートル以上をいいます。調査の結果、県内の巨樹は、73種、4,879本あることが確認されました。宮崎県はその中から、幹周、樹齢、名木度を基準に、天然記念物を優先、由緒ある樹木も重視して100本を選び、「みやざき巨樹100選」としました。

巨樹の分布を全体的に見ますと、国有林、民有林を問わず、巨樹は奥山には少なく、ほとんどは人家の周辺や社寺境内に残されていることがわかります。

91年の巨樹調査から20年近くが経過しますが、その間、多くの巨樹が風雨のために枝折れ、倒木、消失などの被害を受け、100選の巨樹の中でもこれまでに10数本が消失しました。環境悪化で樹勢が弱り、風雨の被害を受けやすくなったのではないかと見られており、今後の保護のあり方が課題になっています。



宮崎神宮のラクウショウ

幹周	460cm
樹高	24m
推定樹齢	120年

巨樹100選

宮崎市	郷土の名木
所在地	宮崎神宮

ラクウショウは、北アメリカ原産のスギ科の落葉針葉樹で、湿地でよく育つことから和名はヌマスギと言います。世界で最も寿命が長い木と言われ、4千年以上も年輪を重ねているものがあると言われていています。わが国には明治の初期に輸入されるようになったと言われ、宮崎神宮に植樹されたのは1891年（明治24）と伝えられ、現在、わが国最大のラクウショウと見られています。

宮崎神宮のオオシラフジ

幹周	295cm
樹高	3m
推定樹齢	200年

巨樹100選

国指定	天然記念物
所在地	宮崎神宮

オオシラフジは、1907年（明治40）当時の宮崎町長が奉

納したもので、当時からかなりの大きさであったと言われます。正式な学名はなく、大きく真っ白な花をつけることからこの名で呼ばれています。宮崎神宮では4月半ばになると藤祭りが行われ、多くの花見客で賑わいを見せます。

瓜生野八幡のクスノキ

幹周 960cm
樹高 25m
推定樹齢 800年

巨樹100選
国指定 天然記念物(群)
所在地 瓜生野の八幡神社

八幡神社は古くから瓜生野八幡宮と呼ばれ、地元の人は今でもそう呼んでいます。この境内にあるクスノキ群は大小16本からなっていて、このようなクスノキ群落は県内でも珍しく貴重な巨樹・巨木群です。

生目のイチョウ

幹周 624cm
樹高 34m
推定樹齢 300年

巨樹100選
宮崎市 郷土の名木
所在地 生目神社

生目神社の森は約5,000?あり、森にはイチョウのほかにもイチイガシやクスノキ、オガタマノキなどの巨樹群を見ることができます。クスノキは

1792年(明治3)に伐採命令が出されたとき、神社や氏子たちが米3石8斗を出し合いこれと引き替えに伐採をまぬかれたという石碑が残されています。

オガタマノキは古くから神木として境内に植栽され、2~4月には芳香のある花を咲かせます。

クスノキ

幹周 865cm
樹高 25m
推定樹齢 300年
宮崎市 郷土の名木
所在地 生目神社 社殿右手

オガタマノキ

幹周 320cm
樹高 18m
推定樹齢 300年
宮崎市 郷土の名木

所在地 生目神社 社殿左手

去川のイチョウ

幹周 1,120cm

樹高 30m

推定樹齢 800年

巨樹100選

国指定 天然記念物

所在地 高岡町去川公園

去川のイチョウは島津氏初代の島津忠久が1179年(治承3)ごろに植樹したと伝えられています。現在では県内最大のイチョウの巨樹で、太い枝が少ないのが特徴です。秋には見事な黄葉を見せ黄葉狩りの観光客で賑わいます。近くには、かつて薩摩に出入りするための要所であった去川の関所跡や旧家があり、薩摩街道の歴史を今に伝えています。

清武の大クス

幹周 1,320cm

樹高 25m

推定樹齢 900年

巨樹100選

国指定 天然記念物

所在地 清武町船引神社

船引神社にある清武の大クスは県内最大のクスノキで、地元では八幡楠とも呼ばれ、神社の神木として地元の人々から親しまれてきた巨樹です。根回りは18メートルもあって、幹の空洞は8畳敷きほどもあるといわれます。枝は東西に33m、南北に37m広がっているということでしたが、1993年(平成5)の台風で被害を受け、枝が折れ樹形が変わりました。

11月にはシイの根の寄生植物ヤッコソウがクスノキの周りで見られるかもしれません。

今泉のカシ

幹周 600cm

樹高 22m(折損・消失)

推定樹齢 400年

巨樹100選

所在地 清武町今泉神社

今泉神社は400年ほど前に丸目地区から移転した神社と言われ、現在はカシ、シイ、タブなどの照葉樹やスギの巨木に囲まれた遊歩道のある小規模な森林公園になっています。巨樹100選のイチイガシは、1993年(平成5)の台風で南斜面の道脇に樹幹を高さ約5~6m残して折れ、上部は消失しました。